

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

会社全体を変えられないところは淘汰される とうた 入山章栄 (早稲田大学ビジネススクール教授)

1. コロナを契機としたここからの数年は、全部を変えられるビッグチャンスです。働き方改革は半ば強制的に進んでいますし、コロナがいずれ終息してもリモートワークは社会に実装されるでしょう。そうすると評価制度が絶対変わる。やはり自らどんどん新しいものを取り入れて変化していく、つまりはイノベーションを起こして前進するしかない。
2. 時間で人を縛るという発想がなくなり、またリモートワークで仕事のプロセスが見えにくくなりますから、成果が全てになる。成果主義になると、メンバーシップ型雇用が終わり、ジョブ型になる。新卒一括採用もだんだん変わる。組織へのエンゲージメント (愛着心) も下がり、終身雇用も変わってくる。実は今、こうした全部変えられる、奇跡的なチャンスなのです。かつてなかったことです。
3. ここで会社全体を変えられる会社は、新しい価値を見い出せるでしょう。しかし、会社全体を変えられないところは多分そのままなくなる。淘汰されていく。つまり、最後のチャンスです。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2020年9月26日号)

人事・労務について

外国人労働者から「切られる」日本 (日本の悪いイメージが拡散)

1. コロナ禍による経営環境の悪化を理由にした外国人労働者の差別的な扱いが相次いで報告されている。不当に雇い止めにしたたり、十分な休業補償をしなかったりする例だ。慢性的な人手不足を解消するための救世主として、政府は外国人労働者の受け入れ拡大にかじを切ったが、「雇用調整弁」に利用されている実態が改めて浮き彫りになった。
2. 外国人労働者を安価で代替可能な労働力と見なす時代は終わりを告げた。外国人の働き手にとって魅力的な労働市場を今、本気で整備しなければ、いずれ「切られる」のは日本の側になるだろう。

(参考:「日経ビジネス」:2020年9月14日号)

経営者のための危機管理

再起も厳しいのが現実

1. 東京商工リサーチの調査によれば、経営者年齢と業績は反比例することがわかった。つまり、若いうちは業績がいいものの、年を取れば取るほど業績は悪化していくというわけだ。年老いた社長が居座っていて業績が悪化した企業など、誰も救ってくれない。後継者がいなければ、残された選択肢は廃業か倒産である。準備を怠っていれば、倒産しか道はない。
2. 「倒産した後に再起を狙えばいいではないか」という考えも捨てたほうがいい。これまでの倒産事例を見ると、取引先が協力してくれてないからだ。さんざん迷惑をかけられた社長に協力しようなどという取引先は皆無なのだ。2019年の倒産企業の平均寿命は23.7年。この15年間では前年に次ぐ4番目の長さになったものの、決して長いとはいえない。倒産の憂き目に遭わないためにも、早めの準備が重要だ。

(参考:「週刊東洋経済」2020年9月12日号)

古典に学ぶ

人格の修養

(解説) 現代の青年にとって最も切実に必要を感じつつあるものは人格の修養である。維新以前までは、社会に道徳的の教育が比較的盛んな状態であったが、西洋文化の輸入するにつれて思想界に少なからざる変革を来し、今日のありさまではほとんど道徳は混沌時代となった。

(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)